

いしかわ

まちづくりView

No.13

目次

「街並み・まちづくりシンポジウム」	1・2・3
あのみち、このまち“まちづくりめぐり”	
～加賀百万石博～	4・5
まちづくりの動き	
『適正なごみ処理と資源循環型社会の形成に向けて』	6
『野々市町北西部区画整理事業工事に着手』	7
センターだより	8

財団法人いしかわまちづくりセンター

特集

街並み・まちづくりシンポジウム

—地方都市の再生にむけて—「まちづくりの決めてとは」

1. はじめに

今回で18回目を迎えたこのシンポジウムは、県と各市町が共催で、先進地等の事例を紹介しながら、まちづくり活動への住民参加を広く県民に普及させるため、県内各地で開催してきました。

今年のテーマは国の施策である「都市再生プロジェ

クト」の「地方都市の個性ある活性化、まちづくり」の決定を受け、個性と活力ある地方都市の都市再生をどのように行っていくべきかをテーマに開催され、活発な討論が行われました。

日時：平成14年1月25日（金）13：30～16：40

場所：石川県文教会館ホール

県内まちづくりフォーラム テーマ「まちづくりの現状と課題」

コーディネーター	岸井 隆幸	日本大学理工学部教授
パネラー	多田 英夫	都市ルネッサンス・小松駅前大通りまちづくり協議会会長
	板谷七海雄	輪島・都市ルネッサンス石川まちづくり協議会会長
	金子 達郎	LASCO片山津副理事長
	瀬戸 光臣	珠洲・都市ルネッサンスまちづくり推進委員会会長

パネルディスカッション テーマ「まちづくりの現状と課題」

コーディネーター	岸井 隆幸	日本大学理工学部教授
パネラー	近藤 秀明	内閣官房都市再生本部事務局参事官
	西郷真理子	コミュニティ・デザイナー
	坂田 守男	デザインコンサルタント代表
	長谷川 章	東京工科大学・日本工学院顧問
コメンテーター	福本 俊明	石川県土木部長

県内まちづくりフォーラム「まちづくりの現状と課題」

県内各地でまちづくりに奮闘されておられる方々から、その現状や課題について報告をしていただきました。

(瀬戸氏：珠洲・都市ルネッサンスまちづくり推進委員会会長)

長い年月をかけて培ってきた文化や歴史を持つまちの人口減少に歯止めをかけることができないかと日夜取り組んでおり、住みやすい環境づくりを推進することによって珠洲市の未来を担う若い世代の定着を図ることができるのではないかと考えています。

今後の方針と方向性については、人口の減少に歯止めをかけ、住民に魅力あるだけではなく、遠くから来られた方とも交流をすることで、「何度来てもよかったなあ」と思っていただけまちを目指しております。

(多田氏：都市ルネッサンス・小松駅前大通りまちづくり協議会会長)

駅前大通り商店街は駅前大通りという名のごとく駅前から東西に伸びる250mの通称「れんが通り」です。現在40軒近くの店舗が軒を連ねています。その活性化ということで現在、都市ルネッサンス事業が行われております。

また、今年是小松駅周辺の立体交差事業が完成に向け大詰めを迎えており新しい小松の顔ができあがります。

我々れんが通りの関係者も、皆様のご協力を得ながら早急に事業を完成させ、地域の人々に愛される商店街に生まれ変わらせようと奮闘しています。

(坂谷氏：輪島・都市ルネッサンス石川まちづくり協議会会長)

現在輪島の中心部ではいくつかの事業が計画され進行中であるが、地方の個性ある活性化の観点から、まち全体のランドデザイン、景観や機能の整合性をしっかりとコントロールするシステムを前もってつくっておく必要があります。そのためには地域としての意識の高揚、そのための努力、がんばりが大変重要ではないかと思っております。

(金子氏：LASCOP片山津副理事長)

LASCOP片山津という団体は石川県では初めてまちづくりのためのNPO法人として、昨年の7月に認定されました。この団体の方針としては、自分たちが楽しいまちをつくっていきこう、住んでいて楽しいまちにしていこうというのが一番の大きな目標であり、交通実験や町内を探索したりいろいろな取り組みを行っております。



「まちづくりの決め手とは」

パネルディスカッション「個性あるまちづくりに学ぶ」

全国各地でまちづくりにたずさわる方々から、様々な活動についてご報告いただき、まちづくりの在り方やその重要性について議論していただきました。

(福本氏：石川県土木部長)

地方都市の再生や地方の自立の中には、地方の主体性ということが出てくるわけですが、主体というからには、主体と同時に責任というものもあり、また、主体を主張する限り、責任も自ら請け負うことになるのではないのでしょうか。地方自立、地方主体、地方責任、これを住民の方々に当てはめると、住民主体という中にはやはり一部住民責任という部分も引き受けていただく必要があると感じております。

(岸井氏：日本大学理工学部教授)

世の中、全体が暗くなっていますけれども、皆さんで元気をだしてまちづくりに取り組んでいただくことが大切であり、また、我々が住んでいる地域に対して、我々が次の世代の子どもたちのために、今のこの旬のまちを残していくことが大切であります。

(西郷氏：コミュニティー・デザイナー)

物理的な空間が豊かにならないと我々の生活は満足できないのではないかと。よく考えなければならないんだというお話をいただき、そして、それを動かす時はリスクとリターンとの関係をはっきりすることが大切であるということでした。

(坂田氏：デザインコンサルタント)

そもそもマニュアルはない、決め手はない。「良いところ(場所)なんだ。」そういうふうに思ったほうが良いということです。当たり前の中に価値があるのではないかとのお話でした。

(長谷川氏：東京工科大学・日本工学院顧問)

今が大事だ。先駆ける精神を持つ人がいるんだ、それを「目利き」する人がいて、育てていくということがシステムとして大変重要であり、失敗を恐れてはいけない、やるしかないというお話でした。

(近藤氏：内閣官房都市再生本部事務局参事官)

そこに住んでいる方々が行うまちづくり活動が重要であり、そのような活動をどう支援できるかを考えています。しかし、そのような活動を続けていくためには、活動全体が資金的にも自立してやっていく仕組みをつくっていくことが重要ではないかというお話でした。



県内県外を問わず、まちづくりに重要なことは、住んでいる私たち自身が、責任を持って取り組むことであるようです。

まちづくりにはこうすれば必ずうまくいくという正解もなく、失敗を恐れずに取り組むしかない…。

苦しい時代だからこそ、元気にまちづくりに取り組んでいきたいものです。

金沢



加賀百万石博

1 概要

平成14年3月23日(土)に開場した加賀百万石博は、平成15年1月5日(日)までの289日間金沢城公園二の丸広場を会場に開催しております。

大河ドラマ「利家とまつ～加賀百万石物語～」が現在放送されていますが、その舞台となる石川県では、経済界、観光業界、文化団体、行政などが一体となって、石川県の歴史・文化の全国発信、ふるさと教育の醸成、地域振興を三つの柱として大河ドラマに呼応したさまざまな事業を展開しています。そのメインとなるイベントが「加賀百万石博」です。

会場となる二の丸広場に御殿風の建物をしつらえ、昨年7月約230年ぶりに復元された菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓と一体となった展開をしています。



2 みどころの紹介

会場は、大河ドラマ館、百万石シアター館、石川まるごと館、物販・飲食ゾーン「楽市楽座」、屋外ステージ「おんぼらっと座」の5つのゾーンに分けられています。

大河ドラマ館

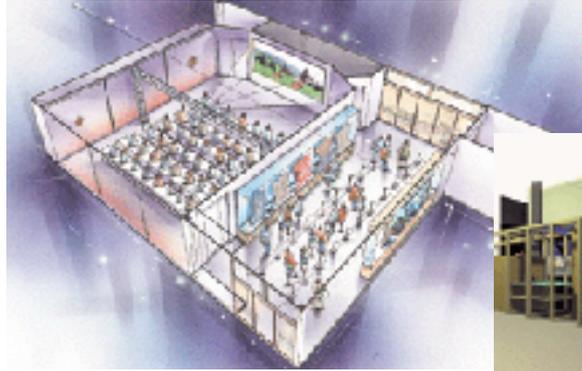
“利家とまつ”の歩みやさまざまなドラマ情報を発信します。まず、現存している肖像画などからコンピューター技術を駆使して再現された「利家とまつ」の肉声が皆様をお迎えます。そして、二人が若い頃に暮らした長屋やお城の上段の間をロケセット風に再現して、お殿様気分を味わっていただきます。また、自分が戦国時代に生まれていたらどの武将タイプなのかを占う百万石占いコーナーもあります。





百万石シアター館

迫力いっぱいの200インチの大型スクリーンで、メイキングビデオを上映し、出演者の素顔に迫ります。また、待合いホールでは番組で使用した衣装や小道具の展示を行っています。



石川まるごと館

“の・と・か・が・かなざわ”の魅力をすべてを夢つづらに詰め込みました。

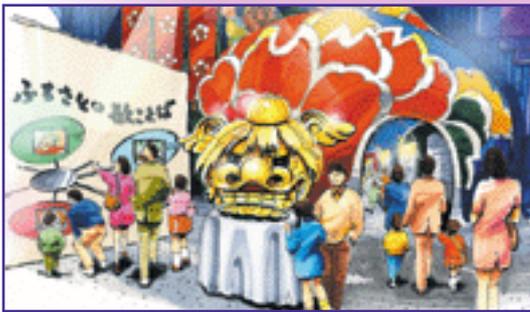
茶室夢つづら...加賀百万石の礎を築いた利家の茶の湯の世界をイメージした遊興の茶室です。

観光夢つづら...自然豊かな観光スポット、人と風土が育んだユニークなまつりの数々、石川の工芸の魅力などを

紹介しています。

遊々夢つづら...加賀・能登の民話や昔話のコーナーや強運といわれた利家にあやかる金箔貼りでつくる兜や歴史探訪スタンプラリーなど子供から大人まで楽しめる「遊びの迷宮」です。

百万石夢工房...熟練の手技を今に伝える職人達の繊細な仕事ぶりを見学していただきます。



物販・飲食ゾーン「楽市楽座」

石川の収穫祭と銘打って匠たちの手技による工芸品はもちろん石川ならではの四季折々の味覚もご堪能いただけます。また、若手作家の作品販売も行われています。

屋外ステージ「おんぼらつと座」

ドラマ出演者のトークショー、市町村の伝統芸能の披露、新進アーティストの創作発表など楽しいイベントステージを展開しています。



3 入場料金

	当日券	団体券
小人(6~17歳)	600円	500円
大人(18~64歳)	1,000円	900円
高齢者(65歳以上)	800円	700円

団体は20名以上です。

入場券で菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓にも入場できます。未就学児、身体障害者手帳保持者等とその介護者1名は無料です。

お問合先 金沢市広坂2-1-1

大河ドラマ石川県推進協議会

TEL 076-223-9461 FAX 076-223-9337

(大河ドラマ石川県推進協議会)

まちづくりの動き

適正なごみ処理と資源循環型社会形成に向けて

適正なごみ処理

ごみの焼却に伴うダイオキシンをはじめとする化学物質による環境汚染が社会問題化していることから適正なごみ処理施設の整備が求められています。

広域化の取り組み

県と北部地域の24市町村は、一体となって広域廃棄物処理のモデルとなる「RDF化計画」を推進しています。

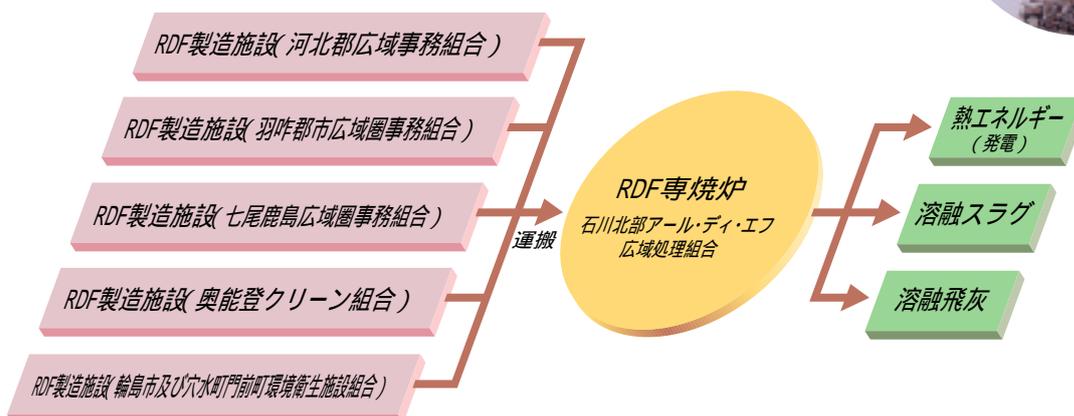
この計画は、24市町村を5つの広域ブロックにとりまとめ、各ブロックに「RDF化施設」を整備し、そこで加工されたRDFを一括して焼却する「RDF専焼炉」を建設する計画です。

資源循環型社会に向けて

RDFの適正な焼却はもちろん、焼却時に発生する熱エネルギーを発電に利用、飛灰をスラグ化し路盤材等に活用するなど廃棄物の有用なリサイクルが可能となり、資源循環型社会の実現に大きく寄与するものです。

RDF : Refuse Derived Fuel (廃棄物からできた燃料)

家庭や事業所からでる可燃ごみを破碎・乾燥・選別・成形し燃料化したものです。固形化されているため運搬や取扱いが容易です。



建設場所 羽咋郡志賀町矢駄地内
敷地総面積 8.7ha



RDF専焼炉の整備

県は、RDF専焼炉を管理運営する石川北部アール・ディ・エフ広域処理組合から委託を受けて平成12年12月から建設工事に着手し、ダイオキシンの排出基準が厳しくなる平成14年12月には一号炉の試運転、平成15年3月の完成に向けて建設工事を進めています。
(環境整備課)

野々市町北西部土地区画整理事業工事に着手

野々市町北西部土地区画整理事業地区は、野々市町の中心市街地より西方へ2 Kmで、町域の西端に位置します。地区の北側はJR北陸本線、東側は国道8号に隣接した極めて交通利便が良く、市街地としての開発条件に恵まれた地区であります。

本地区は、近年市街化の進む周辺地区に歩調を合わせ、「緑と水の潤いのあるまちづくり」を目指します。特に町の西端での都市基盤整備の総仕上げにもなり、骨格道路である都市計画道路二日市松任線、二日市徳用線、野々市駅通り線の整備に併せJR野々市駅前広場の整備も同時に行ないます。交通の利便性を活かしながら積極的に地区公園や街区公園を設置するとともに河川・水路の整備計画と併せて、魅力的な生活空間を創出します。

【事業概要】

- 事業名称：野々市町北西部土地区画整理事業
- 事業主体：野々市町北西部土地区画整理組合
- 施行面積：65.43ha
- 施行期間：平成11年度～平成20年度
- 総事業費：13,535百万円

安全祈願祭・起工式を挙行

野々市町北西部土地区画整理事業の安全祈願祭と起工式が平成13年12月1日、野々市町字三日市町で関係者約120人が出席して行われました。起工式では、黒山茂理事長が「恵まれた交通環境を生かした土地利用を図り、地域の活性化につなげたい」と式辞、来賓の沓掛哲男参議院議員、谷本正憲知事、安田彦三町長、井上昇町議会議長が祝辞を述べました。



(野々市町)

センターだより

将来を担う子どもたちが、まちづくりの意義や必要性を学習し、まちづくりを身近に体験することには、大きな意味をもっています。当センターで今年度開催したイベントをご紹介します。

◆まちなみ探検隊 (H13. 10. 30)

輪島市立河井小学校の3, 4年生140名が、学校の授業において、市内中心商店街(馬場崎、わいち商店街)をカメラ片手に探検しました。



まちなみ探検の様子

学校で道の機能や役割の説明を聞いた後、両商店街関係者から、まちの成り立ち、移り変わりそして商店街として目指していることの説明を聞きました。気にとまった街並みや商店等をカメラで撮影し、後日学校でまとめ、発表しました。

まちの歴史を学ぶとともに、日頃通り慣れた商店街に新たな発見があり、愛着が芽生えたのではないのでしょうか。



商店街での説明の様子

◆親子まちづくり現場見学会 (H13. 11. 18)

住んでいる地域の都市計画やまちづくりに関心をもってもらうとともに、また、子どもを通して、父親や母親にまちづくりについて親と子で共通の話題としてまちづくりの関心をもってもらうため、11月18日(土曜日)に「親子まちづくり現場見学会」を開催しました。



金沢西部副都心地区での様子

金沢市近郊の親子20組50人が参加し、金沢土木事務所に集合し、金沢西部副都心地区、涌波トンネル建設現場、東山ひがし伝統的建造物保存群地区を見学しました。



涌波トンネル現場での様子

当センターでは、地域や学校で行うまちづくり学習の企画や取り組みに対して、相談、事例紹介、スタッフ参加、専門家派遣、道具の貸与など行い、活動を援助します。

編／集／後／記

今回の特集は、県内のまちづくり活動を紹介するとともに、個性と活力あるまちにするには、どのような決め手があるのかをテーマに取り上げてみました。

みなさんも自分のまちを見つめ直し、一緒に考えてみませんか。

発行:(株)いしかわまちづくりセンター
TEL 076-223-9448 FAX 076-223-0161
HP://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm
発行日:平成14年3月